

## 会 議 録

会議の名称	令和5年度第3回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て会議
開催日時	令和5年8月22日(火) 10時00分 開会 ・ 12時30分 閉会
開催場所	川越市役所 本庁舎7階 7AB会議室
議長(委員長・会長)氏名	平野方紹会長
委員出欠状況	出席：13名 平野会長、鈴木副会長、今野委員、松本委員、中田委員、影山委員、山本委員、水谷委員、田村委員、長峰委員、榎本委員、近藤委員、春原委員 欠席：6名 小寺委員、井守委員、山田紀子委員、山田誠次委員、堀口委員、伊藤委員
傍聴人	0人
事務局職員職名	こども未来部長、こども未来部副部長(こども政策課長)、こども育成課副課長、こども家庭課長、こども家庭課副課長、保育課長、保育課副課長、療育支援課長、児童発達支援センター所長、健康づくり支援課長、教育財務課長、こども政策課副課長、こども政策課副主幹、こども政策課主任、こども政策課主事
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) (仮称)川越市こども計画の策定に向けた調査について 4 報告 (1) 少年の翼研修生との意見交換会について 5 その他 6 閉会

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・委員名簿</li> <li>・第2回子ども・子育て会議 意見まとめ ……(資料1)</li> <li>・(仮称)川越市こども計画を取巻く計画について ……(資料2)</li> <li>・調査票(放課後児童クラブ(学童保育)利用保護者対象) ……(資料3-1)</li> <li>・調査票(就学前の児童の保護者対象) ……(資料3-2)</li> <li>・調査票(小学5年生対象) ……(資料4-1)</li> <li>・調査票(小学5年生の保護者対象) ……(資料4-2)</li> <li>・調査票(18歳～39歳の者対象) ……(資料5)</li> <li>・中学生が考える川越市の課題と対策 ……(資料6)</li> <li>・少年の翼研修生との意見交換会(概要) ……(資料7)</li> </ul>
会議要旨	<p>3 議題</p> <p>(1) (仮称)川越市こども計画の策定に向けた調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議の結果、「放課後児童クラブ(学童保育)利用保護者対象」及び「就学前の児童の保護者対象」の調査票について承認され、事務局において調査実施に向け、準備を進めることとなった。</li> <li>・「小学5年生対象」、「小学5年生の保護者対象」及び「18歳～39歳の者対象」の各調査票に係る設問等について意見交換を行い、その他に意見がある場合は、9月5日(火)までに会議シートにて事務局に提出することとなった。</li> <li>・「小学5年生対象」、「小学5年生の保護者対象」及び「18歳～39歳の者対象」の各調査票については、分科会での各委員からの意見及び会議シートの意見を踏まえ、修正した各調査票を次回の分科会にて再度附議し、そこで議論した上で調査票を確定させることとなった。</li> </ul> <p>4 報告</p> <p>(1) 少年の翼研修生との意見交換会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より少年の翼研修生から聴取した意見内容を中心に説明があり、今後も引き続き、子どもの声の施策への反映等について議論していくこととなった。</li> </ul> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より次回分科会の開催日程について、10月の開催を予定しており、日程等が確定次第、改めて開催通知等で案内を行うとした。</li> </ul>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>※本資料では以下のように表記する。 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (川越市子ども・子育て会議) → 分科会</p>
	<p>1 開会</p>
	<p>2 挨拶</p>
	<p>3 議題</p> <p>議題に入る前に、前回欠席した新規委員が自己紹介を行った。</p>
	<p>[議題(1)]</p> <p>(仮称)川越市こども計画の策定に向けた調査について</p> <p>事務局より資料1及び資料2に基づき、説明を行った。</p> <p>説明内容の概要は以下のとおり。</p>
事務局	<p>(資料1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回分科会及び会議シートにより提出された各委員からの意見及び意見に対する事務局の見解について説明を行った。</li> </ul>
事務局	<p>(資料2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度計画策定を予定している(仮称)川越市こども計画については、子ども・若者計画、子どもの貧困対策の推進に関する計画の他、子ども・子育て支援事業計画等のその他法令の規定により作成する計画と一体のものとして作成することを検討している。</li> <li>・(仮称)川越市こども計画の上位計画となる第四次川越市総合計画(後期)、第四次川越市地域福祉計画との関係を説明。その他の関連計画についても整合を図る必要があり、各所管課と必要な調整を行う必要がある。</li> </ul> <p>その後、平野会長から事務局の説明に対し、補足説明が行われた。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート回答に対するインセンティブについて多くの委員から意見をいただいた。ポイント等で分かりやすいインセンティブを用意することができればよいが、それは難しい面もある。個人的な見解となってしまうが、アンケートに協力することにより、より良い市</li> </ul>

事務局	<p>政につながるということが最大のインセンティブとなるということ、どのように理解してもらうかが重要ではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)川越市子ども計画では、これまで本分科会で審議してきた子ども・子育て支援事業計画を含めて複数の計画を包含して策定することとなる。計画策定に関する議論は来年度となるが他の計画等についても考えながら検討する必要がある。</li> </ul> <p>その後、事務局より資料3-1及び資料3-2に基づき、説明を行った。説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>(資料3-1・資料3-2)</p> <p>第2回分科会からの変更点を中心に説明を行った。</p> <p>新規に追加した設問は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立の学童保育室に加え、民間の放課後児童クラブでも調査を行うことから、事務局側で資料3-1の間11について、現在利用中の放課後児童クラブ(学童保育)をどのような理由で選んだかを問う設問として追加した。</li> <li>・榎本委員からの意見に基づき、資料3-1の間26及び資料3-2の間34で、市からどのような支援があれば、子どもをもうひとり授かりたいと思うかを尋ねる設問を追加した。</li> </ul> <p>第2回分科会から修正した設問は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤委員からの意見に基づき、資料3-1の間25及び資料3-2の間33について、リード文を修正し、「利用の有無に関わらず」を追加することによって、利用したことがない者についても利用希望をスムーズに回答できるようにした。</li> </ul>
会長	<p>資料3-1及び資料3-2について、前回の分科会にて意見をいただいた、榎本委員と近藤委員から意見を伺いたい。</p>
委員	<p>意見を反映していただき感謝している。このアンケートで、学童保育を含め、より良い子育て環境になったら良いと思う。</p>
委員	<p>同じく意見を反映していただき感謝している。アンケートに協力した方の声が少しでも施策に反映されたらいいと思う。</p> <p>その後、事務局より資料4-1、資料4-2及び資料5に基づき、説明を行った。</p> <p>説明内容の概要は以下のとおり。</p>

事務局	<p>(資料4-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年前に実施した貧困実態調査に加え、本市として新たにこども計画と一体的に策定する「子ども・若者計画」に係る「子ども・若者の育成支援に関する調査（以下、「子ども・若者調査」という）」を併せて実施する。</li> <li>・ 両調査については、調査対象者が同じだが、調査への回答の負担を抑えるため、今回、貧困実態調査と子ども・若者調査の2つの調査をひとつの調査票にまとめる形で実施する。</li> <li>・ 今回こども本人を対象とする調査は、小学5年生、中学2年生、16歳・17歳と、3つの年代に分けて行う。なお、中学2年生と16歳・17歳を対象とした調査票は、設問内容等の表現が異なるが、基本的な内容は同様のものとなるため、小学5年生の調査票をベースに意見をいただき、当該意見を他の年代の調査票にも反映する予定としている。</li> <li>・ 調査の名称について、5年前の調査では「子どもの生活に関する実態調査」としていたが、今回は、「子ども・若者調査」も含めていることから、「子ども・若者の意識と生活に関する調査」とした。</li> <li>・ 5年前の貧困実態調査の調査票をベースとして、そこから追加したものについては薄い色のハイライト（※ホームページ掲載時では黄色）、削除したものについては濃い色（※ホームページ掲載時ではグレー）のハイライトをしている。</li> <li>・ 追加した設問については、国や県で実施した同様の調査を参照している。</li> <li>・ 2つの調査をひとつにまとめているため、設問数がある程度多くなることを想定していたが、現時点で枝問を合わせて40問あり、5年前の貧困実態調査とほぼ同じ設問数となっている。</li> <li>・ 小学5年生が調査対象という点から、これ以上の設問数の増加は回収率に影響が出る可能性が高いと考えており、そのことを踏まえて追加や削除を検討していきたい。</li> <li>・ 上記を踏まえ、主な変更点や追加した点等を中心に説明を行った。</li> </ul>
事務局	<p>(資料4-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学5年生の保護者対象の調査票だが、中学2年生、16歳・17歳の保護者対象の調査票についても基本的な内容は同様のものとなるため、当該調査票をベースに、他の年代の調査票にも反映させる予定。</li> <li>・ 保護者は、子ども・若者調査の対象ではないため、貧困実態調査のみの実施となる。</li> <li>・ 資料4-1と同じく、5年前の調査をベースに追加した設問を薄い</li> </ul>

	<p>色（※ホームページ掲載時では黄色）のハイライト、削除した設問を濃い色（※ホームページ掲載時ではグレー）のハイライトとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追加した設問については、国や県で実施した同様の調査を参照している。</li> <li>・保護者を対象とした調査だが、設問数が48問と多く、資料4-1と同様に回収率を考慮し、そのことを踏まえて追加や削除を検討していきたい。</li> <li>・上記を踏まえ、主な変更点や追加した点等を中心に説明を行った。</li> </ul> <p>（資料5）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳から39歳を対象とした調査であり、貧困実態調査を含まないため、「子ども・若者調査」のみとしての実施となる。</li> <li>・本市として初めて実施する調査であるため、前回調査との比較（ハイライト部分）はない。</li> <li>・各設問は、国や県で実施した同様の調査を参照している。</li> <li>・本調査は幅広い年代を対象とした無作為抽出での調査となるため、他調査と同様に回収率を考慮し、設問の追加や削除を検討したい。</li> <li>・上記を踏まえ、全体的な設問の流れの説明を行った。</li> </ul> <p>その後、平野会長から事務局の説明に対し、補足説明が行われた。</p>
事務局	<p>その後、平野会長から事務局の説明に対し、補足説明が行われた。</p>
	<p>その後、平野会長から事務局の説明に対し、補足説明が行われた。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査票全体としては、回答者の負担を軽くするために設問を増やさないようにし、削除可能な設問を積極的に削除するといった対応を行った。一方で、インターネット関係などの設問の追加を行っている状況。</li> <li>・また、専門的な用語で剥奪という言葉を使うが、子供の貧困の場合、ただ貧しいかどうかではなく、周りの子ができていることを自分ができないという状況について、選択肢に具体的な事例を挙げて導き出そうとしている。</li> <li>・資料4-2について、本計画には次世代育成支援対策推進法に基づく計画や、母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づく計画を包含しているため、保護者の生活状況の部分はかなり詳しく聞く設問となっているが、これは当該調査結果から、ひとり親世帯等の支援が必要な世帯をどのようにサポートするかといった施策に繋げていくためのものとなっている。</li> <li>・資料5について、これは18歳から39歳という若者の意見を調査するということで、川越市として初めての調査であるが、設問については他の調査との整合性を図っているところ。</li> </ul>

<p>会長</p>	<p>【各委員からの意見等】</p> <p>事務局からの説明に対し、各委員から順番に意見をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学5年生のアンケートについて率直に感じたのは、ボリュームが多いという点だが、今後、加除修正していき、シンプルになれば見え方も変わるかと思う。</li> <li>・夢に関する設問はとても良い。子どもが、夢を持つことはその子どもの生活状況のほか色々なものに良い影響を与えていくと思われるため、このような設問から、見えてくるものがあると思う。</li> <li>・子どもの権利条約でもあるように、子どもが意見を表明することは非常に大事な観点と思われる。会長からアンケートを通して自分の意見が施策に反映されることこそがインセンティブと話があったが、まさにその通りだと感じる。子どもの頃に自分の出した意見が施策に反映され、このような経験をすることによって、その子どもたちが大人になったときに、またこの経験が繋がっていけば素晴らしいと思う。</li> <li>・実施方法について伺いたい。子どもが調査票を回答するにあたり、調査票を保護者に渡して家庭の中で子どもが回答するのか、それとも学校で回答するのか。例えば、家庭の中で子どもが回答するとなれば、子どもの回答内容について保護者が確認するかもしれない。そのような環境で子どもが回答することによって、子どもの回答内容にバイアスが掛かってしまい、子ども自身の率直な言葉が出てこない恐れもある。そのことを懸念している。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施方法について、学校を通して調査票を子どもに配布する予定としている。そして、子どもから保護者に資料4-2の保護者対象の調査票を渡してもらう想定。</li> <li>・各調査票において「調整中」と記載している部分で、子ども自身の回答内容を保護者に見せる必要はないことを示したいと考えている。</li> <li>・また、学校で調査票に回答する時間を設けていただくことについては難しい面もあるかと考えている。現在、本市より教育用タブレット等の配布を行っているため、そのような環境を整えて、子どもが保護者に回答内容を見られない形で回答できるよう、促していきたい。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4-1の問6について、選択肢8に「家にお金がなく、食事や着る服がないときがある」とあるが、保護者が子どもへの関心がなく、食事や着る服がないというケースもあり得る。いわゆるネグレ</li> </ul>

委員	<p>クトだが、保護者が服を洗濯してくれない、食事を作ってくれないというケースで、家にお金がないという訳でもない場合、どの選択肢を選ばせれば良いかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問2 1はとても良い。食べるものがないという話だけでなく、カップ麺やコンビニ弁当、お菓子といったものを毎日食べている子どもは家で食事を作ってもらえていないことを推し測れる点で良くできていると感じた。</li> <li>・問2 3の選択肢Fについて、家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）とあるが、子ども自身の部屋の掃除や片付けについては、家事に当たるのかどうか、家のこととしてやってるのかという点で区分しておくと感じた。</li> <li>・資料5について、18歳から39歳の方から対象者を無作為抽出するということだが、18歳などの当たり前にスマホがあった世代と39歳などの携帯電話が当たり前ではなかった世代とでインターネット等の設問について世代間での回答が異なってくることが想定される。そのため、18歳から39歳だと幅があり、実際にどの世代の方がどのような回答だったのか測れない可能性があることから、年齢を10代、20代、30代といった3分割にして問う設問を冒頭に追加しても良いかと感じた。</li> <li>・資料1の第2回分科会の意見について、7月下旬に国の少子化対策でフランスに視察に行った国会議員による不適切な発信があり、このような方々が少子化の対応を決定しているのかと感じたため、記録として意見を残した方が良いと考え、このような形で出した。</li> <li>・これまで川越市こども計画の中に少子化対策があるのかと思っていたが、資料2で川越市総合計画の中にも少子化対策があることを知った。今後、どのような形で、何本の柱が立ち、どのように施策を振り分けていくのか、このアンケート調査の結果を踏まえて対応していくと思う。その点から、このアンケートに回答することによって川越市のこども計画が更に良くなるということについて、調査票を発出する封筒にキャッチコピーやデザインで目立つ形で明記し、封筒が手元に届いた時点でこれは回答するべきと思えるようになれば良いと考えたため、提案として挙げさせていただく。</li> <li>・過去調査の設問を踏襲しているものと削除したもの、また新規での設問が連動しているため、この調査結果がどうなるか関心が高く、また結果をどのように施策に反映させるのかが、これからの課題だと考える。設問等の内容については、もう一度精査し、改めて意見等を出させていただきたい。</li> <li>・気になった点として、中田委員からも意見があったように、子ども</li> </ul>
----	--



委員	<p>の回答内容について保護者は気にすると思われるため、子どもに率直な意見を出してもらうためにも、どのような場所、状況で子どもがアンケートに回答するか検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また18歳～39歳の方への調査も同様に、どのような形で回答いただくかという点について、もう少し検討いただきたい。</li> <li>・アンケートへの回答ということで、プライバシーを保護された場所で落ち着いて回答できる場所が良いかと思うが、やはり保護者としては家で子どもが回答しているとその内容が気になるかと思われる。そのため、時間的に難しいところもあるかと思うが、学校で回答することが良いと思う。</li> <li>・学校で回答するとなると、引きこもりや不登校の子どももいるかと思われるため、そのような子どものための回答方法についても検討すべき。</li> <li>・資料4-1の5ページ目において、学校での楽しみに関する設問が今回削除予定となっているが、不登校の子どももいる中、学校で何が楽しみなのかを問う設問も必要かと思った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身内にひとり親がいるが、その子どもが感じていることを、果たして周りの大人たちがどれくらい理解できているかと考えたことがある。その点から、この調査の中で子どもが答える内容と保護者が答える内容とで何らかの接点やリンクできるものがあれば良いと感じた。</li> <li>・子どもは困っていることに限らず、話したいことがたくさんあると思う。例えば、学校であったこと、自慢をしたいこと等、保護者にも話しているかもしれないが、第三者にも知ってもらいたいという感情があるのだと思う。そのため、困っていることに限らず、自由に意見を書く欄があっても良いと感じた。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボリュームのある調査への回答なので、子どもは途中疲れてしまうこともあるかと思われるため、回答にあたってはタブレットの利用が良いかと思う。その方が、子どもたちもゲーム感覚となり、回答が楽になるのではないかと思われる。また、学校の先生方の負担軽減にも繋がるので、学校を通しての回答も得られやすくなるのではと感じた。</li> <li>・また、保護者対象のアンケートについて、これまでも学校において、メールでアンケートを実施することもあったため、そのような媒体を活用すれば、保護者からの回収率が上がるのではないか感じた。</li> <li>・学校の協力を得て、子どもに回答してもらう話が出ていたが、中に</li> </ul>

	<p>は不登校の子どももいて、そのような子どもの声こそが施策の検討に必要なと思うので、対応を検討すべき。例えば、学校に行くことができない子どもたちが集まるフリースクールやこども食堂等の子どもの居場所を提供される方の協力を得ることもひとつの方法。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学5年生の子どもは、小学1年生の終わり頃からコロナ禍になり、休校期間等の経験を経て現在の普通の生活に至っている。そのような中で、コロナ禍前よりも子どもが友達の家に行く機会が減っていると感じており、子どもの放課後の過ごし方についての設問がアンケートにあるが、家にいることが多いことがイコール引きこもりや、活動に積極的ではないというような考え方も必要で、そのことを踏まえた選択肢も検討した方が良いと思う。</li> <li>・小学5年生になると、ある程度のことが分かる年齢なので、自分の声がどのように繋がって、反映されていくのか等について、子ども自身が分かると良い。そのため、学校に協力を得るのであれば、先生方から子どもに対し、「みんなが暮らす川越市を変えていく」かもしれないという前向きなアンケートであることを伝えてもらいたいと思った。</li> <li>・資料5について、18歳から39歳までの幅広い方々の声をどのように拾うかは課題と感じた。</li> <li>・色々なところで、川越市のLINEが見やすく便利になったという声を聞くため、そのようなLINE等のSNSを活用も良いかと思った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども対象の調査の中で、子どものお金事情に関する設問がないと感じた。例えば、お小遣いを誰からもらう、月額のお小遣いはいくらかといった設問を加えても良いかと感じた。</li> <li>・住んでいる地域によって環境が異なるため、例えば図書館が近くにない等が、どのように調査結果に出てくるか興味深い。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの貧困という言葉について、貧困とは経済的な面だけでなく、精神的な面もあり、その精神的な貧困は家族や友達との関係の中で出てくる。その中で、子ども自身が精神的な貧困を自分なりに解決していけるように頑張っている。その一つに、友達関係を良くしていくことがある。そのような観点から、削除予定となっている友達に関する設問については、再度検討いただきたい。</li> <li>・設問の中で、インターネットに関する設問が追加されたことについては良いと思うが、設問として統一されていない気がしている。例えば、勉強についての設問があるが、今の子どもはインターネットで調べものをする等、おそらく勉強でもインターネットを活用しているので、そのような観点を加味して設問を検討すれば更に良くな</li> </ul>

委員	<p>るのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの調査票においても、ワーディングがとても大事だと考えている。調査項目や設問の中身もそうだが、それに加えてリード文や選択肢も含め、それらが回答者自身に対し、さも回答者自身が呼ばれていないような、この調査の対象ではないような印象を与えることを可能な限り避けられるようなワーディングにしなければならないと思う。</li> <li>・調査対象の方々は様々な価値観を持ち、様々な状況の中で、この調査票に回答していることを意識したワーディングをしていくべきと改めて感じた。</li> <li>・例えば結婚や子どもを持つこと、また引きこもりに関して家から外に出て行くとか行かない等についても、市や国からすると、人としてはなるべく結婚して、子どもを持ってほしいということは、大事なことだと思う。</li> <li>・しかし、他方で、市民からすると、それらは各個人の考え方があって然るべき問題だと思うので、例えば結婚や子どもを持つこと等の設問を見たときに、回答者自身がそのように誘導されそうだと感じた瞬間に答える側として冷めてしまい、回答を中止することもあると思われる。</li> <li>・そのため、回答する者の立場を色々と想像しながら、今後ワーディングをブラッシュアップしていくのが必要と感じた。例えば、子どもを持つことについても、何らかの理由により授けられない方もいるので、そのような方が回答する際にどのように思うか、あるいは子ども対象の調査だと、既に児童養護施設に入っている子どもが調査に回答する際にどのように感じるかを想像するべき。</li> <li>・X（Twitter）の投稿を見ていると、「市が実施する調査でこんな質問があった、とんでもないことだ」や「子育てに関して、このような依頼があった」といったものが拡散され、調査票の設問も公にされたりするような時代である。</li> <li>・その投稿が独り歩きして、例えば川越市はこのようなことを考えた調査を実施している等、思いもかけない形で拡散することもあり得るため、それを全て防ぐことは難しいかもしれないが、色々な捉え方をする回答者を想定し、対応する必要があると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山本委員の意見と同じく、18歳から39歳が対象の若者調査について、39歳が若者という認識はあまりないので、アンケートにおいては、10代20代30代を問う設問を追加したほうが良いと感じた。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども対象のアンケートについて、学校で回答するのは難しいかもしれないが、設問には踏み込んだ内容もあるため、少なくとも保護者に見られて困るような、保護者がいない所で回答したいような設問については、学校で回答できるような、アンケートの作りとしても良いのではないかと感じる。</li> <li>・小学5年生は、ある程度理解できる年齢だと思うので、この調査アンケートに回答することによって、それがどのように施策に反映されるのか等、学校の先生方の協力のもと、子どもに説明していただくと良い。</li> <li>・今の子ども達はタブレットをかなり活用できると思うので、対応が難しいかもしれないが、ホームページにアクセスしなくても調査に回答できるような設計をして、宿題感覚で子どもが回答できる環境ができれば良いと思う。</li> <li>・18歳から39歳の方が対象のアンケートについては、やはり年齢の幅が広いので、他の委員の意見のとおり、年代が分かった方が良いと感じた。</li> <li>・保護者対象のアンケートについて設問量が膨大かと思うが、回答期間はどれぐらいの期間を想定しているのか。多忙の保護者も多いかと思うので、周知方法がとても大事だと感じる。別の委員からも話があったが、メールで協力依頼があれば記録に残るので、忘れても後から見返すことができ、回収率を上げるひとつの方法かと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートへの回答期間については、3週間程度を想定している。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの内容も重要であるが、このアンケートをどのように実施していくかが大きなポイントになると考えている。</li> <li>・冒頭、会長から回答者皆さんの意見が政策に反映されることが最大のインセンティブであるという言葉があったが、そのことを各アンケートの冒頭の部分に明記すること、また、影山委員から話があったワーディングという点も含めて、検討していただきたい。</li> <li>・スケジュール的に難しいかもしれないが、アンケートを実施するにあたり雰囲気醸成していくことも重要で、アンケート調査を周知していくという広報面からの対応も必要と思う。山本委員から意見があったように、どのように皆さんに注目していただくか、これがアンケートの回収率に繋がると感じた。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の設問に関する意見や、調査の実施方法に関する意見もいただいたが、資料4-1、資料4-2、資料5の調査票については、こ</li> </ul>

事務局	<p>ここで全て決めるというわけではなく、今日いただいた意見と、また会議シート等で意見をいただき、それをもって事務局でまた調査票に反映させ、次回の分科会でまた議論したいと思う。</p> <p><b>4 報告</b></p> <p><b>(1) 少年の翼研修生との意見交換会について</b></p> <p>事務局から資料6及び資料7に基づき、説明を行った。 説明の概要は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市では、姉妹都市である北海道中札内村と中学生の交流を行っており、今年も4泊5日の日程でまさに本日から北海道で研修を行う予定である。</li> <li>・資料7は、事前研修において、実際に研修生である中学生から出してもらった市に対する要望をまとめたもの。</li> <li>・要望のあった事業について予算がつくことが望ましいが、要望があったから実現できたと伝えられるよう、行政として工夫し実現する必要があると考えている。</li> <li>・意欲的に意見を出してくれた中学生たちにまずは感謝し、このような意見は今後も大事に扱っていきたい。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち独自の目線で考えて自分たちの意見を表明してくれている良い取組みと認識している。今後も彼らの声をどのように施策に反映させていくか、また子どもからの意見聴取の方法について本分科会で議論していきたい。</li> </ul>
事務局	<p><b>5 その他</b></p> <p>事務局より事務連絡を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議シートについて、資料3-1及び資料3-2に係る意見については8月25日（金）までに、それ以外の本日の議題に係る意見等がある場合、9月5日（火）までにメール、郵送、FAXにて提出をお願いしたい。</li> <li>・第4回分科会について10月に開催する予定。日程等が確定次第、改めて開催通知等を送付させていただく。</li> </ul> <p><b>6 閉会</b></p>